第4回検討委員会での協働体制強化（案）に対する委員意見まとめ

令和４年5月12日
学校・家庭・地域の協働体制検討委員会
資料５

No.	発言分野	内容
1	イメージ（案）について	ポイント①は「共有」ではなく、参画とか、つくっていくという意味合いだと、例えば「共創」といった言葉ではないか。学校と一緒にやっていきましょうというなかで「共有」と言われると、少しずれを感じる。
2	イメージ（案）について	ポイント①「共有」は、参画とか共創とか、何かいい言葉があるといい。
3	協議会の意義	新しい発想というか、客観的な見方という、別な言葉を使うと、俯瞰的な見方をしていくような動きが期待できる。
4	協議会の意義	イメージ（案）では学校評議員機能と地域学校協働本部機能はどのように再構成されるのか。　⇒ポイント①学校・家庭・地域が目標を共有する機能は学校運営協議会機能を活用し、地域学校協働本部機能を強化するイメージ。学校評議員機能は学校運営協議会機能を入れることにより必要なくなる。
5	協議会の意義	「責任と権限」について⇒学校運営協議会の制度上の権限であり、権限を持つということが一定の責任を持つという意味合いになる
6	協議会の意義	主体的に自分がこうしたいと責任を持ってやることで、達成感とか楽しさが味わえて人が集まるような協議体になるような仕組みをこのイメージ（案）に入れたい
7	協議会の意義	ただの保護者とかただの地域の人でもできるかもしれないというモチベーションになると見えば、子どもたちのために個々に思っていることを表現できたり、具体化できる社会だということを見せていくときっかけになる市民活動になる。
8	協議会の意義	組織だけで動けないのでその機能を維持していく必要がある。そのために事務局の機能をどのようにつくっていくかとか、負担感をどのように減らしていくかなど、整理していくことが大切。
9	協議会の意義	開かれの方だけじゃない、そのほかの方たちも当事者になるという意識をどうやってつけるか。学校をよくしていこう、子どもたちの学びや育ちを支えていこうというところを全体として共有できる、そういう仕掛けは必要。
10	協議会の意義	地域側や家庭側が協力しなければ何もならないというところはまず大前提。
11	協議会の検証	開かれたのバージョンアップ版の活動が結局学校が無理をしてひねり出すような形になるのであれば、何のためなのかなという話になってしまう。健全な状況で運営されているのかどうかというチェックが必要。
12	協議会の在り方	どうしたらみんなで子どもたちの状況を共有して、同じゴールに向かって歩めるかということを考えたときに、特に右上のプラン・ドゥ・チェック・アクションのチェックが「共有」と連動するといい。地域の方たちもみんなでそういうものを客観的に見ることができるような仕組みができると、それだったらこうやろうという次のステップに進むことができる。
13	協議会の在り方	学校側も協議会に関わる方々、サポーターに関わる方々が参加しやすく、かつその人たちが学校という舞台で活躍したり、何か参画しやすいような補助の仕組みをもう少ししっかりと考えていくことができればいい。
14	協議会の仕組み	３つぐらいの部会に分けて、教育活動支援の部会、広報、もう一つは、保護者と地域のコミュニケーションをとっていくような、そういう仲立ちをするような部、この３つでやったらどうかと勝手に思っていた。
15	協議会の仕組み	下位部会を用意することによって、協議会に入ったら全部やらなくてはいけないわけではなく、だけど、協議会の機能はきちんと動けるような制度をある程度考えてもいいのでは。
16	協議会の仕組み	事務とか調整というのは本当に大変で、そういった負担はできるだけ避けて、自分の強みをできるだけ生かしたりしながら参画できる仕組みをつくっていく。
17	協議会の実務	事務の担い手について副校長等事務補助の方の事務としての活用は。　⇒外出しをするので、副校長等事務補助とはまた違う方を任用するのか、協議していただきたい。現行では副校長等事務補助の方も巻き込んだ形で開かれを進めていくということも形としてはある。
18	協議会の実務	協議会を回していく運営マニュアルというか、指針みたいものが必要
19	協議会の実務	協力者のキャラクターを集約するようなリストみたいなものをつくってみてはどうか。
20	協議会の実務	事務局機能の話と委員長は別なのか、一緒なのか。それと地域コーディネーターの方が委員長を兼ねるのか、事務局を兼ねるのか。
21	協議会の実務	実現したとき、どんなことができるんだろう。学校側にどんなことを地域・家庭にお願いしたいですかというところがそれほど出てこないというのが現状にある。学校側がいかに地域の力を頼る機運を盛り上げるかが今まで出ていない中では一つかぎになる。
22	協議会の実務	事務局機能を担う人が住民の人なのか、仕事として雇われる要素が強い人がいいのかどうかは地域住民の方にご意見を聞いてみたい。
23	協議会の実務	楽しいこと以外に、負担感をなくすのは無理でも、負担感をあまり感じない、そういう場であってほしい。
24	協議会の実務	全て運営母体は学校から離れるという考えでよろしいか。人選は、委員に推薦された人が選ぶのか。いろいろな立場や視点があるのは、ユニークな発想が生まれるのでとてもいいと思う。その上に仕事として事務局ができ上がって、（組織に）カタカナや英語の名前がついたりしてでき上がってくるのか。その運営に関わる費用やそこに誰が参画するのかという不安もある。今後は、そのあたりを話し合っていければいい。
25	協議会の実務	今の学校、先生方、特に副校長先生方が負担に感じられているようなことがあれば、それをできるだけ取っていくという、そういう発想がすごく大事
26	協議会の実務	教育課程届を1.2月に学校評価を踏まえて編成する作業が入ってくるが、そこに開かれで意見をいただいて、承認ということになると、スケジュール感もまた考えないといけない。
27	協議会の実務	最初はすごく肝心。マニュアルというのかな、手引きみたいなものはつくっていくことになる。
28	協議会の実務	人の予算と物の予算というのはバーターでできるものではないのかもしれないが、こういうことにこれだけ使いたいから、こういう予算をくださいなみたいな形になっていくといい。
29	協議会の実務	地域にある企業だったり大学だったりというところもぜひ入れる必要がある。
30	協議会の実務	実際に子どもたちの意見とか考えを拾って、それを踏まえて協議会の中でもどういうふうに進めていくかという仕組みがあるといい。
31	協議会のネーミング	変える余地があるのであれば、協議会の名前のところからでも楽しそうなイメージのものに変える可能性はあるのではないか。
32	協議会のネーミング	ネーミングのコンクールみたいなものをやるとおもしろいのかもしれない
33	広報・周知	選出団体から委員の方を協議会のメンバーに入ってくださいという、そういう呼びかけを誰がするのか。
34	広報・周知	これまで開かれの存在を知らなかった。今後はまた新しい世代の人に対するアピールができるとか、そういうタイミングにはなるのかもしれない。
35	広報・周知	開かれのメンバーだけでなく、広くそのエリアの市民の方に呼びかけるようなイメージなのか。
36	委員の選定・構成	長はだれが担うのか。　⇒　互選と考えている。校長先生が委員長になるということは想定していない。
37	委員の選定・構成	委員の選出はどのようにするのか。　⇒　地域の実情にも応じて校長から推薦を想定。
38	委員の選定・構成	委員の人数は現在８名であるが今後はどうなるか。　⇒　上限は決めるが、８名以内に限るというところについては撤廃したい
39	委員の選定・構成	「つなぐ」のところにあるサポーターを複数名選任するとあるが、このサポーターの方々開かれの委員という設定でよいか。⇒　よい。
40	委員の選定・構成	似たようなメンバーばかりなので、毎回同じようなメンバーが毎年毎年代表をやっている状況にならないか。　⇒　メンバーが固定しないようには、任期の設定や決め方の指針など必要になる。
41	委員の選定・構成	委員の基本的な構成は。⇒地域の実情に応じたり、様々新しい風を入れていくような考え方で、あまり固定はしない。
42	委員の選定・構成	自分の意思もあって、周りからの要望もある組織というのは、（委員も固定されることなく）いろんな意見を聞くということが大事なことではないか。
43	委員の選定・構成	地域CDは本当に大事な方。地域CDからの推薦とか、いろいろな人材を広めていって、この協議会に生かしていただいたらいいと思う。
44	委員の選定・構成	モデル事業では公募委員みたいな形で、ぜひ自分の住んでいるまちの学校にかかわってみたい、子どもが大好きだからかかわってみたいな方を公募してもらうのはどうか。
45	委員の選定・構成	公募委員は難しいかもしれないが、若い力をどのようにして学校の中に入れていくかもまた考えていかなくてはということを考えさせていただけた。
46	委員の選定・構成	今の協議会に例えば保護者の方があまり入っていないということ、さらにジェンダーバランスもとても気になっている。